

平成29年度第2回河南町地域公共交通検討会議 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成29年11月2日（木）午後2時00分～午後4時00分
- 場 所 / 河南町役場4階 大会議室南
- 出席者 / 委員15名／欠席委員4名
事務局7名
傍聴者6名
- 配布資料
 - ・議事次第
 - ・委員名簿
 - ・検討会議資料
 - ・住民意識調査報告書
 - ・需要喚起方策について
 - ・運行状況について
- 議 第
 - 1. 開会
 - 2. 挨拶
 - 3. 報告事項
 - （1）需要喚起方策について
 - （2）住民意識調査について
 - （3）評価の視点について
 - （4）その他

○議事要旨

■委員交代について

河南町議会議員 中川 博氏に変わり小山 彬男氏

// 田中 慶一氏に変わり福田 太郎氏がそれぞれ就任される。

■（１）「需要喚起方策」について

事務局から概略説明。

■（２）「住民意識調査」について

事務局から概略説明。

■（３）「評価の視点」について

事務局から概略説明。

◆意見

- ・事務局より提案があった１０枚つづりの乗車券については非常に期待している。
- ・需要喚起策としても乗車券については有効かと思われる。
→１０枚・１,０００円の乗車券については１２月１日から販売を開始。
- ・「サポーター制度」については、現状の問題点を整理する必要がある。他府県等で実施されている成功例をもっと研究するべきである。
→「サポーター制度」については、改めて問題点を整理し、次回の交通会議までに検討を行う。
- ・「住民の意識調査及びヒアリング調査結果」について利用する人は当然、賛同するというのはわかっていたが、利用した事がないという方のご意見がかなり出たというのは、河南町の住民の意識が高いと判断できる。
- ・バス・タクシー事業については、あくまでも公共事業であるため、基本的には継続して欲しい。
- ・河南町の地域性の特徴から「富田林志向」が強く、金剛バスとの関係が重視されている。

- 地域公共交通システムを適正に評価することが大切である。いわゆるPDCAサイクルを原則として評価していくのが大事である。
- 定期的に事業評価を行い、一度評価を行い5年・10年評価をしないというのはあってはならない。
- やまなみタクシーのシステムも再考する必要がある。
- やまなみタクシーの利用者は継続を願っている。確かに収支率・乗車率は圧倒的に低い住民サービスの面からは外せない。
- バスが空で走っているのは問題があるように思えるが、基本的に路線バスと同じ考え方でお客様が乗車していなくても、走行しなければならない。空で走っているのを見かけた方が乗車してくれるといった面もある。
- 河南町全体の財政状況がわからないため、どこまでの赤字状態が許されるのか不明である。

→以上、総合的に判断して、2月に一応、社会実験の時期が終了するが、評価方法については、まだ定まっていないし、住民の意識も変わってきた。よって、もう少し、現状の社会実験を継続し、需要喚起の整理を行い、次回の交通会議において更に検討を継続していく。